

沖縄平和学習映像教材 第2編:アジア太平洋戦争

探究ワーク2

ポツダム宣言の理想と現代社会の現実

指導案・生徒用ワークシート(25 分)

第8章:敗戦と戦後

探究ワーク:ポツダム宣言の理想と現代社会の現実

ポツダム宣言は、日本の降伏条件を定めただけでなく、戦後の国際秩序が目指すべき平和と民主主義の原則を示しました。宣言から80年を経た今、世界では再び紛争や人権侵害、対立が激化しています。

ワーク1:観点1~4の中から1つ選びます。宣言が目指した理想と「現代のリアル」で起きていることとはどこにずれが生じていますか??

ワーク2:その問題には、どのような立場、利益、権利、価値観が対立していますか?

ワーク3:そのうえで、あなたが「考える必要がある」と思うポイントは何ですか?疑問文で表現しましょう。

1	2
観点1:【平和と国家の主権】 ポツダム宣言(第6条・第7条):世界を侵略へ導いた軍国主義を根絶し、平和な新秩序ができるまで連合国が日本を占領(管理)する。 現代のリアル:国連の機能不全、ロシア・ウクライナ戦争や中東情勢、東アジアの軍備増強、他国への武力介入の是非。	観点:【国境と国際協調】 ポツダム宣言(第8条):日本の主権を本州・北海道・九州・四国などの主要島に限定し、戦争で広げた領土をすべて放棄させる。 現代のリアル:世界各地での国境紛争、海洋進出、インターネットや経済のグローバル化(国境の形骸化)。
3	4
観点:【人権と情報社会】 ポツダム宣言(第10条):言論、宗教、思想の自由、および基本的人権の尊重を日本国民に保障させる。 現代のリアル:SNSによる誹謗中傷やフェイクニュース、生成AIによる世論誘導、一部国家によるネット検閲や市民の監視。	観点:【経済と人道】 ポツダム宣言(第11条):軍事産業は禁止するが、国民が生活するための平和的産業は認め、世界貿易への参加を許す。 現代のリアル:ルールを破った国への経済制裁、それによって苦しむ現地の子どもたち、資源の囲い込み、経済格差。

4つの観点から一つを選び、理想と現実の隔たり、
対立する立場や価値を整理し、探究する問いをつくる。

探究ワーク2:ポツダム宣言の理想と現代社会の現実

学習指導案 中学生・高校生対象 25 分 A4 2 枚

4観点から1つ選び、宣言の内容と現代の課題を比べる。まず何と何が対立するかを見つけ、問題の背景を考え、自分が探究したい問いを疑問文で表す。

1 本時の目標と準備

①宣言が示す内容と現代の課題の隔たりを具体的に示す。②立場・利益・権利・価値観の対立を、複数の側から考える。③背景や改善の条件を検討し、さらに調べる必要のある問いをつくる。

準備:提供スライド、ワークシート1枚、筆記用具、宣言の該当条項と関連資料。映像視聴と宣言の基礎説明は事前に別途行う。現代の事例は資料の時点・内容を確認する。4人程度のグループで同じ1観点を選ぶ。

2 本時の展開 25 分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5 分	観点選択と個人メモ 4観点を見渡し1つ選ぶ。第1段階に宣言の内容と現代の課題を書く。	何が違うかを、資料の言葉や具体例で確認する。 発問①「宣言は何を示していますか」 発問②「現実のどこに隔たりがありますか」 声かけ「選んだ観点の具体例を一つ書こう」	狙い:比較する対象を明確にする。 評価:内容と事例を区別して示せるか。
7 分	対話で背景と対立を整理 第2段階に、異なる立場と大切にものをメモする。	最初の2分で隔たりと理由の候補を共有する。次の3分で、誰と誰が何を守ろうとして対立するのかを整理する。最後の2分で、改善に必要な条件や残る疑問を探す。止まった班には「誰の安全・権利か」などの視点を一つ示す。 発問①「それぞれ何を大切にしていますか」 発問②「一方を守ると、他方に何が起きますか」 声かけ「まず何と何の対立かを見つけよう」	狙い:背景と対立を多面的に考える。 評価:双方の理由や条件を示せるか。
8 分	3つのワークに各自で解答 隔たり、対立するもの、考えるべき問いを文章にする。	各問2分で書き、残り2分で別の理由・立場も探して加筆する。問いは範囲や相手を具体化する。 発問①「背景の説明はどの資料に基づきますか」 発問②「その問いで何を調べたいですか」 声かけ「『なぜ』『どのように』で問いを書こう」	狙い:比較・対立を探究の問いへつなぐ。 評価:資料と問いのつながりがあるか。
5 分	再共有と問いの見直し 3分で問いを共有・加筆し、2分で確かめ方を書く。	答えの一致を求めず、問いの調べやすさを確認する。 発問①「他の見方から何を加えられますか」 発問②「現地の何を調べると手がかりになりますか」 声かけ「誰に、どんな資料で確かめるか考えよう」	狙い:問いを更新し次の学びへつなぐ。 評価:修正と具体的な確認方法があるか。

指導上の留意点 3 ポイント

①宣言の条項そのものと、現代への応用・解釈を区別する。②対立する立場を善悪だけで説明せず、背景や条件を確認する。③現代の事例を詳しく知らない場合は資料に戻り、推察を事実として断定しない。

到達のイメージ

宣言の内容と具体的な現代の課題を比較し、対立する立場・利益・権利・価値を説明できる。そこから自分が考えるべき問いを疑問文で示し、資料や現地での確かめ方を考える。

理想と現実の隔たりから問いをつくる授業の支援

3 4観点と考えるヒント

「どこが違うか → なぜ起きるか → 対立する立場は何か → 改善に必要な条件は何か → 何を考えるべきか」の流れを使う。最初から改善策を急がず、特に何と何が対立する問題かを見つける。

観点 1 平和と国家の主権

第6・7条の軍国主義の除去や占領に関する内容を確認する。提示事例は国連の機能不全、戦争や紛争、大国の介入の是非。国の安全と他国との対立回避は両立するか、国際機関が機能しない時に何が必要かを考える。国家と市民は立場が同じとは限らない。

観点 2 国境と国際協調

第8条の日本の主権・領土に関する内容と、資料に示された現代の国境紛争や国境を越える交流を比べる。領土・資源・安全保障・歴史認識のどれが対立に関わるかを整理し、国家の利益と国際協調を両立する条件を考える。

観点 3 人権と情報社会

第10条の言論・宗教・思想の自由と基本的人権の尊重を確認する。提示事例はSNSの誹謗中傷、偽情報、生成AIによる世論誘導、ネット規制や監視。表現の自由と他者の権利、安全とプライバシーの関係を考える。情報を受け取る側の責任も検討する。

観点 4 経済と人道

第11条の平和的産業、経済、貿易に関する内容を確認する。提示事例は経済制裁、一般市民や子どもへの影響、資源をめぐる争い、経済格差。制裁の目的と生活への影響を分け、国家の責任と市民の責任を同一視せず、経済活動と人権を両立する条件を考える。

4 ヒントを使った支援の進め方

まず自分で考える時間を取り、記述が止まる・一方の立場だけになる・根拠が曖昧な時に、選んだ観点のヒントを一つ示す。①「どこで困った？」と確かめる。②「誰が何を守りたい？」などの視点を示す。③資料に戻り、別の理由や他方への影響を探させる。④自分の言葉で加筆した後、残る疑問を問いにする。全ヒントを一度に読ませず、答えを与えない。考えが進んでいる生徒には示さず、複数の理由を比べよう促す。

5 学級に応じた進め方

プラン	進め方と時間配分 合計 25 分	特徴と支援のポイント
1 協働型	観点選択・個人メモ5分 → 対話7分 各自で文章化8分 → 再共有・方法5分	導入期向け。同じ観点を班で扱う。教員は双方の立場に注目させ、全員が自分の言葉で問いを書くよう促す。
2 併用型	観点確認5分 → 個人で整理8分 グループ共有7分 → 加筆・方法5分	まず自分の考えを持ち、共有で別の立場や背景を加える。問いを広すぎる内容から具体的な課題へ絞る。
3 自立型	観点確認5分 → 個人で解答8分 文章・問いを比較7分 → 修正・方法5分	探究に慣れた学級向け。根拠、対立の捉え方、問いの調べやすさを互いに確認する。初稿を残し修正理由を示す。

6 評価と現地学習への接続

評価：①具体的な内容・事例を比較する。②複数の立場と対立を示す。③比較から疑問文の問いと確認方法をつくる。現地では資料館の展示、戦後の生活や基地に関する資料、住民の話などから選んだ観点の手がかりを探す。事後は現代の課題と比較して問いを見直す。

出典：提供スライド「ポツダム宣言の理想と現代社会の現実」「考えるヒント」。宣言の条項は提示資料の要約を入口に、本文で確認する。

沖縄平和学習映像教材 探究ワーク2 :ポツダム宣言の理想と現代社会の現実

年 組 番 名前

日付

25 分で4観点から1つ選び、3つのワークに取り組もう。選んだ観点到チェックを付けよう。

☐ 1 平和と国家の主権 ☐ 2 国境と国際協調

☐ 3 人権と情報社会 ☐ 4 経済と人道

第1段階 理想と現実の隔たりと背景を整理しよう

宣言が示す内容と現代の具体例を比べ、違いとその理由の候補をメモしよう。

第2段階 対立する立場と改善に必要な条件を整理しよう

誰が何を守ろうとするか、何と何が対立するか、両立の条件や残る疑問をメモしよう。

ここからは、根拠を添えて自分の考えを書こう。共有で得た見方も加えよう。

ワーク1 理想と現実を比べよう

宣言が目指した理想と「現代のリアル」で起きていることは、どこにずれがありますか。

ヒント:宣言の内容と具体例を一つずつ挙げ、何が異なるかを説明する。

ワーク2 対立するものを考えよう

その問題には、どのような立場、利益、権利、価値観が対立していますか。

ヒント:双方が守りたいものと、一方を守ると他方に生じる影響を考える。

ワーク3 自分が探究する問いをつくろう

そのうえで、あなたが「考える必要がある」と思うポイントは何ですか。疑問文で表現しましょう。

ヒント:「なぜ」「どのように」で問いをつくり、対象や場面を具体的にする。

現地や資料での確かめ方

どこで、何を見たり聞いたりすると、その問いの手がかりが得られそうですか。

資料:提供スライド「ポツダム宣言の理想と現代社会の現実」「考えるヒント」。